

# 都市再生整備計画

よこはまえきしゅうへんちく  
横浜駅周辺地区

かながわけん よこはまし  
神奈川県 横浜市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークァーブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	横浜駅周辺地区	面積	90 ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 10 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 10 年度				

※青字は記載例です。

←地区名と表紙の地区名を合わせること。

また、下線部は官民連携まちづくりに関する事項を明示した箇所です。作成にあたっての参考にしてください。

<p><b>目標</b></p> <p>大目標:横浜駅周辺の整備を契機とした賑わいや交流に溢れた魅力あるまちの実現          目標1:来街者を惹きつけ、地域を含めた人で賑わう魅力的空間の創出          目標2:地域の特色を反映した憩いの場の形成          目標3:空間ごとの回遊性の向上から生まれる魅力的な歩行者ネットワークの形成</p>
---

<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>まちづくりの経緯及び現況          (経緯)          ・横浜市では、平成19年に横浜駅周辺地区を対象とした都市再生整備計画を策定し、「便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成」「歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化」「駅勢圏の拡大」に取り組んだ。平成23年には「横浜駅周辺地区整備計画(第2期)」を策定し、「横浜駅周辺にふさわしい治水安全度の確保」「歩きやすく、わかりやすい歩行者空間の創出」「交差点混雑の解消」に取り組んだ。          ・平成21年には、横浜駅周辺のまちを対象に、「国際都市の玄関口としてふさわしいまちづくり」を進めるための指針となる計画である「エキサイトよこはま22」を策定し、横浜駅西口駅前のコンセプトとして「HUMAN ENERGY CORE」(人に優しい駅前空間)を掲げ東口ではOpen sky terminalとして広域ターミナル機能を強化した上で、横浜駅周辺地域の相互波及を図る「ストリート」の形成、乗換えの時間を楽しくめとりある待合が可能な広場空間の形成、人々が心地よく集い時間を費やすことができる憩いの空間の形成等を掲げている。</p> <p>(現況)          ・横浜の中心に位置する横浜都心は、開港の地であり、古くからの都心であった関内、多くの鉄道が乗り入れるターミナルとしてその後急速に発展してきた横浜駅周辺と、この2つの都心をつなぎ、港の特性を活かしながら、新たな都心空間として形成されたみなとみらい21の3つのエリアを中心に構成されている。みなとみらい21の開発進展により、この3つのエリアの一体化が進み、商業、業務、文化機能等が集積する首都圏有数のエリアとして、その集積を活かした新たなまちづくりの段階を迎えている。          ・横浜都心にあって、6社9路線の鉄道が乗り入れ、1日に延べ約200万人の乗降客数がある首都圏有数のターミナルである横浜駅周辺は、横浜都心の核であるとともに、首都圏の中でも重要な拠点である。しかし、まちとして多彩な活動を可能とする公共空間の設え・設備が不足していること、多様な主体による持続的な活動を可能とする仕組み・ルールが整備されていないことなどから、その機能を十分に発揮できていない状況である。          ・横浜駅を中心に東西でまちの特徴が異なっている。駅西側は、商業、業務、教育など、既存の機能集積で育まれた特性を生かしながら、次世代にむけ市街地機能が更新され、通りと沿道が一体となった魅力あるまちが形成されており、駅東側は、・ダイナミックな空間スケールや眺望にすぐれた水辺等を資源に、業務・商業、文化、交流、居住など、地区の特色にあわせ横浜都心の成長を支える新たな機能の受け皿が形成されている。また、駅東西を移動する際には、地下との接続部のアップダウンなどで円滑な人の流れが妨げら</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際都市横浜の玄関口にふさわしい、誰もが使いやすく、ひとの日常を豊かにする魅力的な歩行者空間に向けた、公共空間の設え・設備の整備が必要である。</li> <li>・将来にわたる持続的なエリア価値創造に向けて、多様な主体による活動を可能とする仕組み・ルールづくりが必要である。</li> <li>・横浜駅から周辺エリアへ円滑な動線や滞在空間を確保するため、歩道の拡幅や分かりやすい誘導を強化する必要がある。</li> </ul> <p>将来ビジョン(中長期)          【エキサイトよこはま22】          ・横濱中心戦略 羽田空港への近さを活かし、世界と結ばれた都市活動・交流拠点を形成する。首都圏における重要な広域拠点としての都市機能を向上し、魅力ある生活・文化が創造されるまちを形成する。          ・駅を中心に駅東西の行き来を円滑にして、駅周辺を一体的に楽しめるよう、すべての人が歩きやすく、わかりやすい歩行者空間を形成する。横浜駅周辺ならではの個性と魅力が感じられる「通り」を創出する。</p>
---

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅前広場におけるイベント等活用件	回	横浜駅東西広場で年間でイベントを開催した回数	「人が賑わい、来街者などを惹きつける魅力的空間の創出」により、横浜駅東西口におけるイベントの開催が促進され、イベントの開催数が増加する。	0回／年	令和6年度	4回／年	令和10年度
駅前広場における滞留人口	人	横浜駅東西広場で年間でイベントに会場した人数	「人が賑わい、来街者などを惹きつける魅力的空間の創出」により、横浜駅東西口におけるイベントの開催が促進され、イベントに会場した人数が増加する。	0人／1回	令和6年度	500人／1回	令和10年度
イベントの主催者数・共催者数	団体	横浜駅西口エリアで年間で開催された、(一社)横浜西口エリマネが主催または共催するイベントについて、主催・共催した団体の総数	「多様な主体が活躍することによる持続的なエリア価値の創造」に向けたガイドライン策定により、横浜駅西口におけるイベントの開催が促進され、イベントの主催者数・共催者数が増加する。	645	令和6年度	652	令和9年度
イベント開催日数	日	横浜駅西口エリアで年間を通じて、(一社)横浜西口エリマネが主催または共催するイベントの開催日数	「誰もが使いやすく、ひとの日常を豊かにする魅力的な歩行者空間の創出」により、横浜駅西口におけるイベントや各種取組の開催が促進され、開催日数が増加する。	279	令和6年度	282	令和9年度

## <都市再生整備計画の目標及び計画期間>

### 【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・「市町村名」、「地区名」にはふりがなを付すこと。
- ・「計画期間」欄には、都市再生整備計画の期間を記入し、「交付期間」欄には交付金の交付を受ける期間(概ね3～5年)を記入すること。
- ・「目標」欄は、交付期間内に達成すべき本計画の目標を簡潔に記入すること。
- ・「まちづくりの経緯及び現況」欄は、計画区域のおかれている現況や特徴、これまでのまちづくりの取り組みがわかるよう、簡潔に記入すること。
- ・「課題」欄は、計画区域のまちづくりの経緯及び現況を踏まえ、現段階で何が課題なのかを簡潔に記入すること。
- ・「将来ビジョン(中長期)」欄は、地方自治法に基づく総合計画、都市計画法に基づく都市計画に関する基本的な方針等、既存の計画等における計画区域の概ね5年以上先の将来ビジョンについて、その内容を簡潔に記入すること。
- ・「指標」欄は、原則として、数値で表現できるものを記入すること。
- ・「定義」欄は、指標の数値等がどのように算出されるのかがわかるように記入すること。
- ・「目標と指標及び目標値の関連性」欄は、指標が目標を如何に説明しているか、設定した目標値が目標を達成することを如何に説明しているか、について簡潔に記入すること。
- ・「従前値」欄は、設定した指標の基準年度における実績値を記入すること。
- ・「基準年度」欄は、指標の従前値を算出した基準となる年度を記入すること。ただし、基準年度は都市再生整備計画に位置付けられている交付対象事業が交付金をうけて着手される時点より前とする。
- ・「目標値」欄は、設定した指標の目標年度における目標値を記入すること。
- ・「目標年度」欄は、原則として都市再生整備計画の交付期間終了年度を記入することとするが、指標の基となる調査等の調査年度の関係でこれによりがたい場合はこの限りではない。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【人が賑わい、来街者を惹きつける魅力的空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすいイベントを地元組織が企画し、来街者が楽しめる賑わい空間を創出する。</li> <li>・GREEN×EXPO2027や観光で訪れた世界各国の人々を魅了する国際都市にふさわしい空間を創出する。</li> <li>・イベント等による市民・企業・行政の交流を通じたコミュニティを形成する。</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)横浜駅東口第一駅前広場 【基幹事業】(高質空間形成施設)横浜駅西口駅前広場</p>
<p>【地域の特色を活かした憩いの場の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広場空間の拡張や広場の環境を整備することにより憩いの場の創出を行う。</li> <li>・駅周辺エリアとの回遊性を高めることで、駅に訪れた多様な人を癒せる場を形成する。</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)横浜駅東口第一駅前広場 【基幹事業】(高質空間形成施設)横浜駅西口駅前広場</p>
<p>【空間ごとの回遊性の向上から生まれる魅力的な歩行者ネットワークの形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが使いやすく、歩きやすいホスピタリティある歩行者空間に整備する。</li> <li>・広場、ベンチなどの休憩スペースの整備や美しい街並みから、来街者が立ち寄りやすく歩く楽しみがある環境を作る。</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)横浜駅東口第一駅前広場 【基幹事業】(地域生活基盤施設)横浜駅東口第二駅前広場</p>
<p>【誰もが使いやすく、ひとの日常を豊かにする魅力的な歩行者空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験をふまえ、イベントなど多彩な活動を可能とする空間を創出する。</li> <li>・ファニチャー、植栽等を整備し、国際都市にふさわしい居心地が良くホスピタリティある歩行者空間を創出する。</li> </ul>	<p>【関連事業】(滞在環境整備事業)滞在環境向上に向けた社会実験 【関連事業】(高質空間形成施設)緑化施設等の設置</p>
<p>【多様な主体が活躍することによる持続的なエリア価値の創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・企業・行政等多様な主体の活動を可能とする仕組み・ルールを策定する。</li> </ul>	<p>【関連事業】(計画策定支援事業)ウォークアブル方針策定検討(ガイドライン)</p>
<p>その他</p>	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

様式(1)-④-2

交付対象事業費	146	交付限度額	58	国費率	0.4
---------	-----	-------	----	-----	-----

「都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)」を活用の場合、本様式を使用するこ

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分		うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分			
道路																
公園																
古都保存・緑地保全等事業																
河川																
下水道																
駐車場有効利用システム																
地域生活基盤施設	広場	横浜駅東口第一駅前広場	横浜市	直	約290㎡	R8	R10	R8	R10	60	60	60		60		
	広場	横浜駅東口第二駅前広場	横浜市	直	約455㎡	R8	R10	R8	R10	36	36	36		36		
高質空間形成施設	緑化施設等	横浜駅中央西口駅前広場(電気トラフ・電気設備)	横浜市	直	電気トラフ2箇所 電気設備	R8	R8	R8	R8	50	50	50		50		
高次都市施設	地域交流センター															
	観光交流センター															
	まちおこしセンター															
	賑わい・交流創出施設(地域資源活用型)															
	ワーケーション拠点施設															
	子育て世代活動支援センター															
誘導施設相当施設	複合交通センター															
	医療施設															
	社会福祉施設															
	教育文化施設															
	子育て支援施設															
	元地の管理の適正化															
既存建造物活用事業																
土地区画整理事業																
市街地再開発事業																
住宅街区整備事業																
バリアフリー環境整備事業																
優良建築物等整備事業																
住宅市街地総合整備事業																
街なみ環境整備事業																
住宅地区改良事業等																
都心共同住宅供給事業																
公営住宅等整備																
都市再生住宅等整備																
防災街区整備事業																
エリア価値向上整備事業																
こどもまんなかまちづくり事業																
暑熱対策事業																
合計										146	146	146	0	146		…A

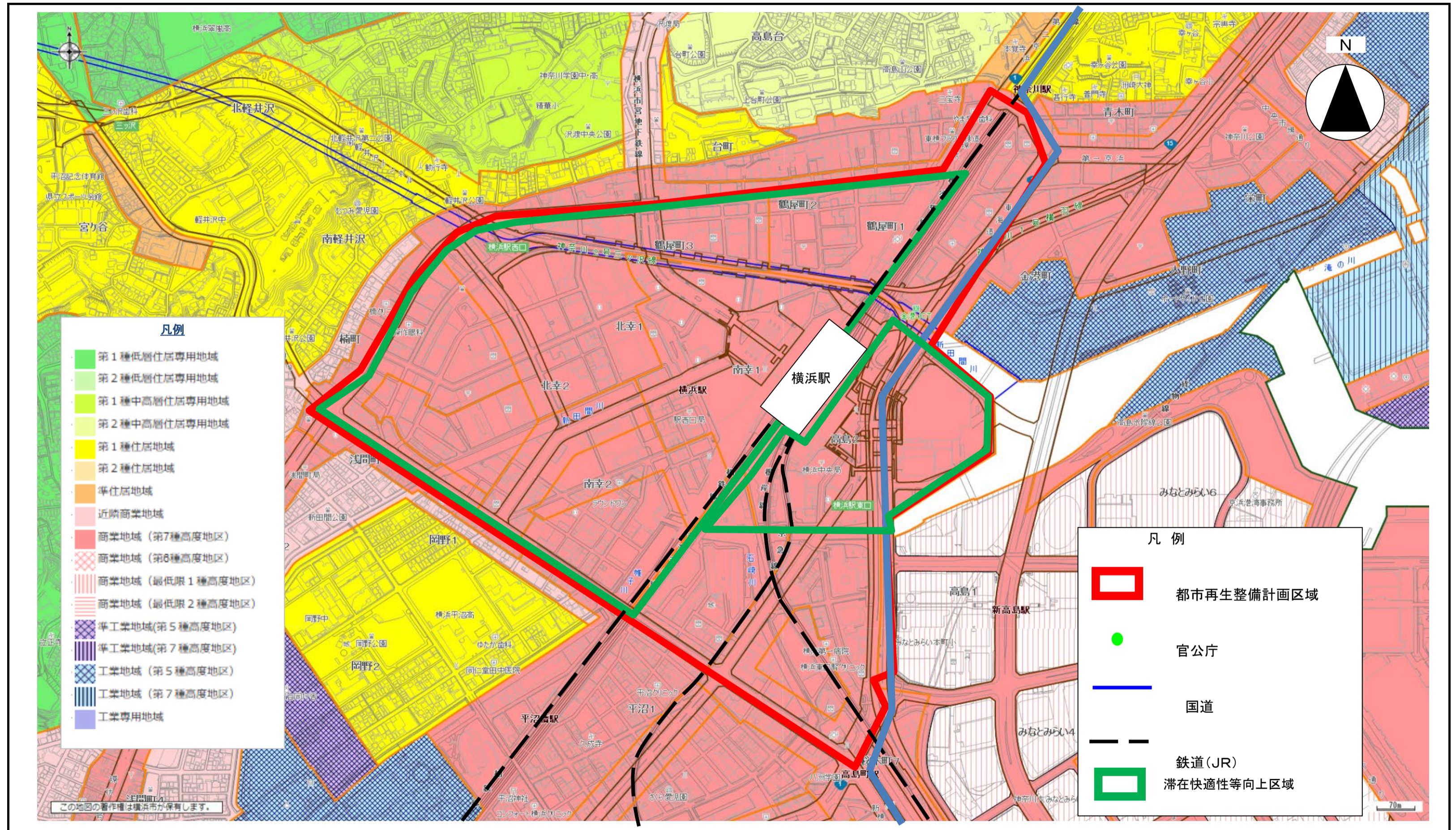
都市再生整備計画全体のB/Cを算出する場合、記入

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分		うち民負担分	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分			
地域創造支援事業																
事業活用調査																
まちづくり活動推進事業																
合計										0	0	0	0	0	0	…B
														合計(A+B)	146	



横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市)

面積	90(63) ha	区域	横浜市西区、神奈川区(南幸一丁目、南幸二丁目、北幸一丁目、北幸二丁目、高島二丁目、鶴屋町一丁目、鶴屋町三丁目の一部)
----	-----------	----	--



横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

目標	大目標: 横浜駅周辺の整備を契機とした賑わいや交流に溢れた魅力あるまちの実現	代表的な指標	駅前広場におけるイベント (回)	0回/年 (令和6年度) → 4回/年 (令和10年度)
	目標1: 来街者を惹きつけ、地域を含めた人で賑わう魅力的空間の創出		駅前広場における滞留人 (人)	0人/1回 (令和6年度) → 500人/1回 (令和10年度)
	目標2: 地域の特色を反映した憩いの場の形成		イベントの主催者数・共催 (団体)	645 (令和6年度) → 652 (令和9年度)
	目標3: 空間ごとの回遊性の向上から生まれる魅力的な歩行者ネットワークの形成		イベント開催日数 (日)	279 (令和6年度) → 282 (令和9年度)
			0 ( )	0 ( ) → 0 ( )

